

大会参加レポート
トレイルO世界選手権
2004年9月16-17日

山口尚宏・世界6位!

山口尚宏

世界6位!

初めて行われたトレイルO世界選手権大会で日本人選手が活躍した。

トレイルO世界選手権2004
2004年9月16日(木)-17日(金)
スウェーデン・ヴェステルオース

トレイルO世界選手権クラス2004結果

氏名	合計 満点 38 点	Day1 満点 20 点	Day2 満点 18 点
Jansson	36 点 64 秒 1 位	18 点 32 秒 3 位 (4 位)	18 点 32 秒 1 位 (1 位)
Fredholm	35 点 92 秒 2 位	18 点 79 秒 5 位 (6 位)	17 点 13 秒 2 位 (2 位)
Gerdman	33 点 96 秒 3 位	17 点 73 秒 8 位 (9 位)	16 点 23 秒 5 位 (5 位)
山口	32 点 98 秒 6 位	16 点 82 秒 12 位 (13 位)	16 点 16 秒 4 位 (4 位)
藤島	29 点 222 秒 16 位	15 点 88 秒 17 位 (18 位)	14 点 134 秒 15 位 (18 位)
児玉	27 点 255 秒 23 位	14 点 87 秒 19 位 (21 位)	13 点 168 秒 22 位 (27 位)



Day2 のリザルトボード
北欧が上位5位を独占する中、6位に日の丸が。

9月にスウェーデンで開催されたトレイルO選手権に参加してきました。今年が世界選手権の第1回の開催であり、オリエンテーリングの日本代表選手としてトレイルO選手が選ばれたのも初めてです! その内容などなどを報告いたします。

トレイルO世界選手権報告

開催場所:

Vesteras ヴェステルオース(ストックホルムの西北西約100km)

日程

- 9/14 火曜 スプリン地図対応練習 & トレーニングトレイルで地形対応練習)
- 9/15 水曜 モデルイベント8 コントロール+1 タイムコントロール
- 9/16 木曜 Day1 18 コントロール+2 タイム

コントロール

(開会式、バンケット)

9/17 金曜 Day2 16 コントロール+2 タイム

コントロール

(表彰式、閉会式)

9/18 土曜 クリニック

(技術・運営講習会)

この世界選手権は、3種目行われ日本からは次のようなメンバーで臨みました。

世界選手権クラス:

児玉拓、藤島由宇、山口尚宏 以上3名 障害の有無に関わらず参加可能。今回日本は健常者3名。

(Day1 + Day2 の成績合計)

パラリンピック世界選手権クラス:

木島英登、軽森亜希 以上2名 障害者のみ参加可能。最大3名。

今回日本から2名

Day1 個人

Day2 チーム(各国上位2名の成績合計)

チーム・オフィシャル:

小山太郎(チーム・マネージャー兼務)、高橋厚、田中博、悴田正也、伊東洋一郎 以上5名

言うと車椅子のイメージでしたが、障害者は車椅子とは限らないんです。杖をつきながら回る方、車椅子と足を併用する方(コントロール間の移動は車椅子&コントロール間の考慮中は)、自転車と足を併用する方もいました。車椅子もよく見られる手押しのものから、電動で2周りも3周りも大きなものまで多岐に認められました。



世界選手権6位に食い込んだ山口尚宏。
この原稿の筆者

トレイルO世界選手権の印象

北欧でオリエンテーリングするのは5年振りであり、会社を5日間休んで10日も海外旅行に行くだけでもありがたい、1年前くらいから非常に楽しみな遠征でありました。海外のトレイルOのレベルはみなさん曰く「かなりレベルが高いらしい」。一体どんな競技となるんだろう...

参加して驚いたのが競技者の印象です。障害者が健常者と変わりなく、伸び伸びと競技しているのに驚かされました。日本ではトレイルOの障害者と

もちろん年齢差も幅広く、10代~60代。男女も関係なし。印象に残った競技者は、車椅子の10代?の女の子(フランス)、車椅子でDPで精力的に動き回っていた40代のおばさん(リトアニア)、私がタイムコントロールを回答したあとで未練がましく後ろを振り返って眺めていたときに「もう今更遅すぎるわよ!(^^)」と突っ込んでくれた30代の女性(ドイツ)、杖使用で英語がいまいちな50代のおじさん(ロシア)、メガネをかけていかにも賢そうな20代?の少年(フィンランド)などな



トレイル世界選手権に望んだ日本チーム
後列左から:小山,高橋,児玉,伊東,悴田,田中,
前列左から:木島,山口,軽森,藤島

ど、みなさん個性的でした。

こんな人たちが全員で1つのコースに臨みます。もちろん世界選手権だから競技に向かう姿勢も真剣そのもの！競技中は一切喋らず、黙々とDPから眺め移動しては眺め、コンパスを振り歩測して距離を測り...なんと「トレイル0パック」というのがあることを発見しました！これは1つのコントロールに複数の競技者がいるときに起きる現象で、どこから眺めれば一番正解のコントロールにたどり着きやすいかを、他の人の動きを参考にしながら考えることです。みなかなりのレベルの競技者ですから、他の人の動きもかなり参考になりました。

真剣勝負の2日間2回の競技。制限時間の各日2時間半を目一杯使い*1、Day1で18個、Day2で16個のコントロールを1個あたり3~8分は考え抜きました。私は地図への対応は割りと早い方だと思いますので、競技中一番気を使ったのが、コントロールの難しさです。なんとと言っても難しい。競技前日のモデルイベントではかなり面食らいました。いつものように気軽にさらっと回ってきたら、なんと8コントロール中正解は5つのみ。率で言うと6割ちょっと。正直かなりあせりました。

*注1 制限時間以内なら回ってくる時間は成績には無関係。前述の成績の「秒」とはタイムコントロールで回答に要した秒数(の合計)

惚れ惚れするコントロール

見えにくいコントロールをやぶを透かして見る技術が必要！本当に絶妙の場所にコントロールがありました。やぶの間のごく狭い幅でしかフラッグが見えない。ちょっと道上を動くと、すぐやぶでフラッグが隠れてしまう。その狭い幅でフラッグを見て、あとはやぶの向こうが見えるつもりで、じっと見えないやぶの向こうのフラッグを心で見ながら、隣の見えるところにまで行って判断する。うまく行けば確かに解ける。でも一筋縄では解けない。面白い！惚れ惚れするようなコントロールがいくつもありません。

モデルイベント7番を例に

まずフラッグがけっこう遠く、見えるフラッグが道のどこに位置するかを見極めるのはなかなか困難です。D(奥に1つある道から外れたフラッグ)が曲者で、から見ると一見これが正解(道の分岐)に見えます。しかし、からよく見ると、Dのフラッグは道から外れていて、Eが正解であることが分かります。丸の中心にあるフラッグが分かっただけでは、正解にはたどりつきません。なんとこのコントロールのポイントはコントロールの手前がやぶくDP、から、地点の限られた場所からしかフラッグが見えないのです。から見て丸の中心のフラッグを判断し、そのフラッグがDPから見てA-Eのどれに見えるのかを判断する必要があり、フラッグを見つめながらDPと移

動するも、途中でやぶに視界を遮られるので心の目でやぶの向こうを見る必要があります。

本当にいい場所にコントロールが置いてあるなと感じました。(他にもモデル:2番、Day1:4番,8番、Day2:7番がそうでした)



モデルイベント7番(地点から)



地図 1/5,000 (位置説明は道の分岐)
正解表 1/2,500

丸の中心をよく見る精度が必要！

日本では比較的コントロールの位置が地図上で説明できる箇所に置かれていました。例えば尾根で言ったら、尾根の先端、変換線の上、変換線の下などです。これが今回のコースでは、何の変哲もない尾根の途中に丸があったりします。この丸の中心を、周囲の特徴物との距離関係や、DP・道上の特徴物からの角度などで判断します。極端に言えば地図上0.2mm=1m単位で。

世界選手権入賞も視野

そんな2日間もあっという間に終わり、結果的には6位という数字が残りました。ここで出発前の目標と成果を評価し、反省してみます。

【出発前目標1】

世界選手権(トレイル0)に望むにあたり、最も理想的な目標としてトレイル0で国際オリエンテーリング連盟大会での日本人初入賞(3位以内)を目指してきます！現実的な目標としては、海外でのトレイル0は初めて(オリエンテーリングは2回目)ですので、現地の地形によく慣れ親しんで、集中して競技ができたかと考えています。

【出発前目標2】

また来年日本での世界選手権のこともPRできたらと考えています。

結果

6位。3位入賞まであと一歩でした。3位のスウェーデン選手が33点で私が32点なので、入賞まではあと2点です。

評価

【目標1】

「理想的な目標」は達成できませんでした。「現実的な目標」は達成できました。過去競技中に犯した「パンチミス」「フラッグのA-Eの認識違い」が一度もなかったのは評価できます。競技時間の2時間半も比較的うまく使うことができ、ちょうど2時間20分かで時間を使い切ってゴールすることができます。Day1の最初のタイムコントロールは、緊張からややあせってしまったかもしれない(結果としてミス)。

【目標2】

北欧勢に続く成績を残せたことで、世界のトレイル0界に日本選手のインパクトを与えることができましたと思います(競技部分ではない部分ですが、パンケットではっぴを来て折鶴を渡し来年の日本の世界選手権にぜひ来てください!と大いにPR)

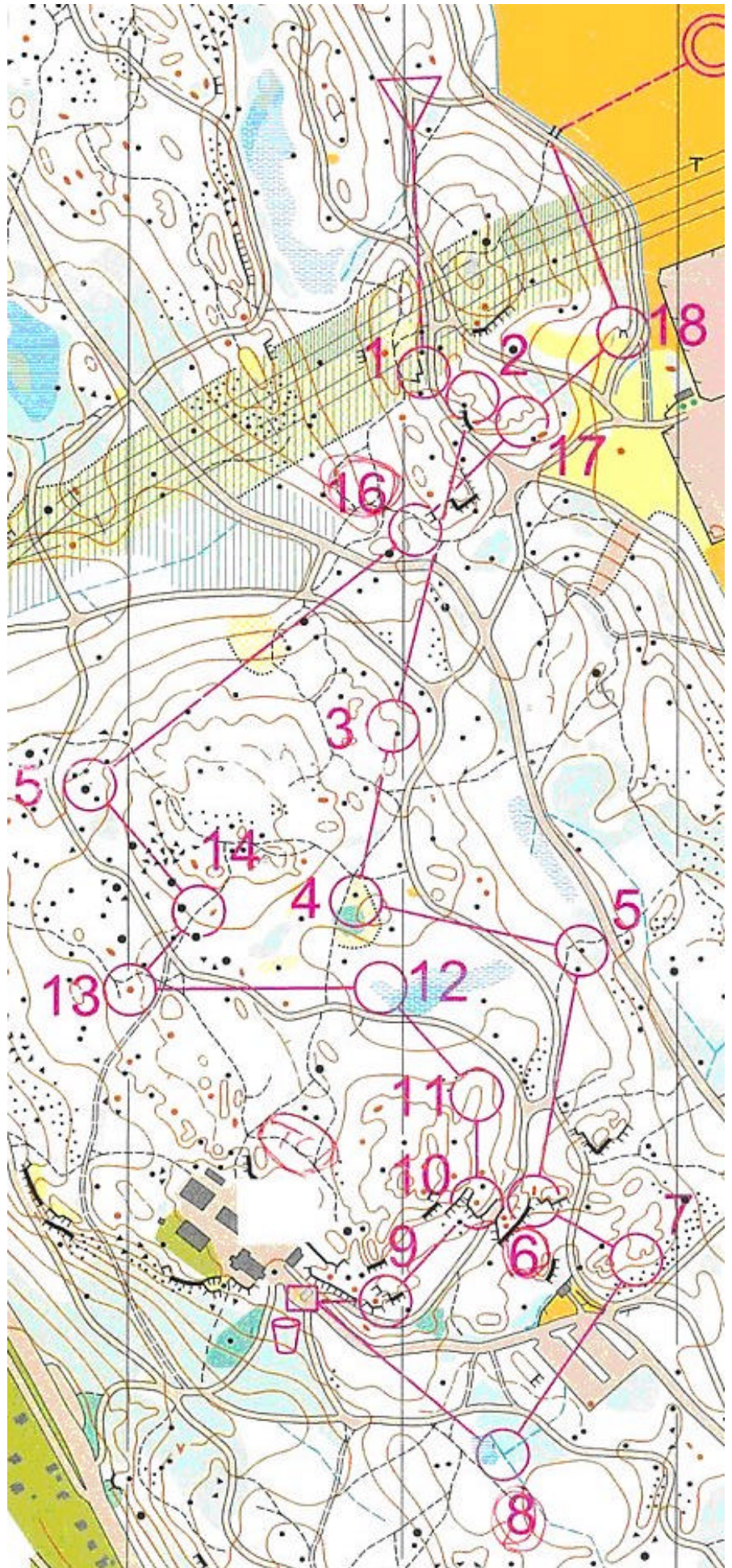
今後の課題

出発前の「理想的な目標」は自分が世界のトレイル0選手でどのくらいの位置付けか全く分からない状態での目標だったので、正直「夢」に近かったように思います。今回の順位を考えると、あながち「夢」でもないことが分かりました。より難しいコントロールにもう少し慣れることができれば、あと2点取るとは十分可能だと思います。今後日本でも世界選手権の想定レベルのコースを組み&競技し、より難しいコントロールに慣れたいです。

次に世界選手権に参加することができれば、3位入賞を「現実的な目標」としたいと考えます。私の会社環境では毎年の参加は到底無理で3~4年に1回の参加になりそうなので、2007年あたりを狙うことになりそうです。



世界選手権クラス2位 Fredholm 選手と筆者



Day1 地図

日本選手の今後の展望

ずばりトレイル0ならば十分入賞が可能、あわよくば優勝もできるかもと、今回身近に感じました。世界選手権クラスもそうですし、パラリンピック選手権クラス個人戦もそうです(木島選手はDay2(団体戦)のパラリンピック個人順位は3位ですから、仮にDay2が個人戦でしたら入賞でした)。

トレイル0は日本でまだまだ発展の余地があり、日本でトレイル0の世界を目指す選手は今後どんどん増えていくと思います。体力・年齢・性別は関係ないですから、誰にでもチャンスはあると思います。当然私より優れた選手も現れるでしょう。

日本はトレイル0では世界各国の中でもまずまず盛んな方に入ると聞いています。さしずめ先進国のあとを一生懸命追っている中進国といったところでしょうか。競技の翌日にトレイル0講習会に参加し、世界の最先端を見てきたところ、日本で普段言われていることと概ね同じでした。世界の趨勢を取り入れ、着実に前に進んでいます(OCADを用いた正解表の形式やタイムコントロール機器は日本の技術だそうです)。小山太郎さんや高橋厚さんの先人の努力に心より敬意を表し、今後もついていけばきっといつか優勝できる日が来ます!

スウェーデンのトレイル0

閑話休題。パンケットで仕入れたおもしろ情報を紹介しましょう。パンケットで地元スウェーデン選手・チームマネージャーと同じテーブルになり、トレイル0先進国=スウェーデンの現状をちょっと聞きました。

トレイル0の歴史:
20年以上。参加者3万人のオーリングで毎年実施。さすがスウェーデン。歴史も長いです。

年間大会数:
4~11月がシーズンで40~45大会。このうち12大会がトレイル0ランキング指定大会。

国内エリート競技者数:
全200名。60~70名/1大会参加。ランキング上位25名が国内選手権出場可。

世界選手権スウェーデン国内予選:
トレイル0ランキングを参考に世界選手権出場者決定。
歴史が深いだけあって、トレイル0のエリート競技者も多く、ランキング制度もあり、大会数も多いです。今年の

スウェーデン選手に来年ぜひ来てくれと言ったところ、来年は選手になれるか分からないと言っていました。毎年ランキング上位者は入れ替わるようです。(そのスウェーデン選手には来年も国内予選がんばって!とエールを送っておきました)

国内全競技者数: ??名
残念ながら聞きませんでした。今回の一方で選手権終了後の併設大会に、かなりの数のトレイル0競技者が普通の私服で、のんびりとコースを回っている姿も見受けられることから、スウェーデンでもかなりの数がいることが予想されます。

トレイル0にもこんな種目が!
ミドル0: 競技時間2時間半で距離2km程度が普通のトレイル0=ロング0?。これに対してミドル0はなんと距離が600m程度。でもコントロールは普通の数で20個ほどだそう... 短距離に凝縮されている種目です。

トレイル0にもこんな種目が!
スプリント0: これはミドルよりも更に距離が短いもの!?と思いきや、そうではなくメディア受けする競技内容のようです。なんとタイムコントロールのみ8個連続! これなら競技はあっという間に終わりますし、テレビ中継も可能です。連続タイムコントロールは競技者にかなりの集中力を強いることでしょう。

トレイル0にもこんな種目が!
ナイト0: なーんとなんとナイト競技があるそうです。世界選手権の翌週にナイト競技を含んだ2日間大会がスウェーデンであるそうで誘われました(仕事のため無念のキャンセル)。フラッグに反射板をつけるところはフットのナイト0と同じです。昼間なら簡単なコースでも特徴物が見えにくくナイト競技ではかなりの難コースとなります。

上の話を聞いたときは、もう驚きの連続でした。トレイル0と言えばおとなしい種目という固定観念がありましたが、バリエーションをつけることも可能なんですね! 目からウロコでした。上の中では自分でもちょっと運営してみたくなる種目があります。特に私はフット0でもナイト競技が好きなので、そのうち...?



パラリンピッククラスの競技者たち(一番左の方はタイムコントロールの運営者!)

今後のトレイル0の取り組みに生かしていきたいこと

今回の遠征は多くのことを得ました。最後にそれらを列挙して、この報告を結びます。

Eクラスのコースとは?

難しいコントロールとは?
これまでトレイル0のコースプランナーを3回担当しました(2003年3月愛知下山インカレ, 2004年2月けんもり大会, 2004年3月伊賀インカレ)。伊賀インカレではコースのレベルを見誤り、Aクラスで簡単すぎるコースを組んでしまい「どうすれば競技者がより楽しめる=それなりに考える時間が必要で回り甲斐があるコースを組むことができるのか」という点が私の中でこ半年の課題となっていました。

今回世界選手権のコース=各国代表選手でも満点が取れないようなコースを回り、より難しいコースを解くヒントを得ました。今後のコースプランに活かして行きたいと思います! 具体的にどういうコースを組むのかは...ここでは秘密です。この号がみなさんのお手元に届く頃の大高緑地大会でお目見えするかも!?

日本のトレイル0界の今後の方向性

日本選手がトレイル0世界選手権で上位活躍するための、日本のトレイル0界の今後の方向性について考えてみました。次にフローを示します。

先駆者によりトレイル0が日本に導入され、日本でトレイル0大会が開かれるようになる(1998年)

恒常的に参加するトレイル0愛好者が産まれる

先駆者により本格的なトレイル0競技大会が開かれる(2002年8月1000日前大会:日本初のEコース設定)(2003年3月:インカレ併設大会実施)

トレイル0愛好者が徐々に増えていく。先駆者以外からも本格的な競技大会ができる運営者、本格派競技者が産まれる(2004年10月現在このあたり)

日本各地でトレイル0大会が恒常的に開かれ競技の場が提供される。これはフット0大会に出られない障害者競技者にとって常時オリエンテーリングに接することができるようになるという意味でもある。全国的にトレイル0愛好者が増え、競技的にも切磋琢磨される。(2年後2006年??)

日本選手がトレイル0世界選手権で常に上位活躍!(3年後2007年??)

トレイル0の長期路線としては、このような感じだと思います。今はのあたりかと考えます。

1998年にトレイル0が日本に導入されてからの数年間は、偉大な先駆者のお二人(小山太朗さん、高橋厚さん)の両名がほぼ全てのトレイル0イベントに携わり、大会の質が確保されてきました。ようやく近年先駆者以外でも本格的な競技大会ができる運営者が少しずつ産まれてきました。インカレなどを通じて、トレイル0の上位を目指す競技者も出てきていると聞いています。

今後日本選手がトレイル0世界選手権で常に上位活躍するためには、広い裾野となる大勢のトレイル0の愛好者がいてこそ、地域クラブや大学クラブが運営する全国津々浦々のフット0大会でトレイル0が併催されていくといいというのが私のビジョンです。



軽森選手と話すロシア選手3人とパラリンピッククラスの選手

フット0大会のコラボ

ちょっと話しが反れますが、この文

書を読んでいる皆さんはオリエンテーリングが大きく次の4つに区分されていることをご存知でしょうか?

移動手段	
フット0	足(タイムを競う)
スキー0	スキー(タイムを競う)
MTBO	自転車/足(タイムを競う)
トレイル0	足・車椅子など何でも(正確さを競う)

日本のオリエンテーリング界にフット0以外のオリエンテーリングが根付き出したのはここ3~5年ほどのことです。これはオリエンテーリングの新たな可能性です。もちろん日本のオリエンテーリング界はこれまでフット0中心に進んできたし、これからもフット0中心に進んでいくものと思っています。しかしフット0プラスでオリエンテーリングの幅を広げる意味で、最も普及の可能性を持っているのは私はトレイル0だと思っています。トレイル0のメリットとして、日本全国いつでもフット0との同時開催が可能&特別な道具なしで気軽に楽しんでもらえるという点があります。

別の観点から見ると、トレイル0側の事情としてトレイル0はまだ単独種目としては生きていきません。参加費が運営費を上回るだけの参加者を集められないと思います。トレイル0愛好者へのアンケートを取ると、トレイル0単独大会にわざわざ行くよりはフット0との併催大会に参加したいとの結果が大勢です。トレイル0盛んにするとしてもフット0との協力関係が必要です。

先ほどの話しに戻ります。もしこの文書を読んでいるみなさんがトレイル0に興味があれば、参加者としてトレイル0を楽しむとともに、他の方にトレイル0を楽しんでもらうことができる運営者にもなってみませんか? 自クラブの大会・練習会などのイベントにトレイル0を併催してみませんか? フット0のために作ったOCAD地図さえあれば、トレイル0のコースセット&地図修正は慣れれば短時間でできますよ(3~10日程度)。

みなさんのそんな努力が、将来の「日本選手がトレイル0世界選手権で常に上位活躍!」に結びついていくことを期待します。

それだけでなく日本全国でトレイル0を行う環境が整ったということになり、障害者を含めてこれまで以上に積極的にトレイル0を取り入れるようにしていったらと思います。老若男女健常関係なく1つのコースを楽しむこと

ができるというのは、トレイル0の大きな魅力です。

トレイル0 エリートを目指す競技者の情報交換

これまで国内で行われてきた組織的な活動は、「普及員講習会」や「コース設定講習会」といった運営者の立場からのものが多く、競技者の立場からの活動は限られていました。今回2004年の世界選手権では、短い期間ながらも「アンケート形式によるトレイル0の課題の確認」「2004年版スプリント地図記号の確認」「距離感把握練習」「本番に似たテレインで特徴物などの確認」など競技力向上のための組織的活動が行われました。初めて組織的にトレイル0を競技として捉えて望んだ大会という意味で画期的なことでした。

来年2005年は愛知県で世界選手権が行われることから、今後日本でもトレイル0を競技として積極的に捉える競技者が増えてくるでしょう。そのためのために、今回2004年の活動を有効に使いたいものです。過去の成績を越えてどんどん上を目指して欲しいと思います。

私は残念ながら来年は運営者ですが、日本選手がよい成績を取るために少しでも協力できるとすれば、積極的に協力したいと思います。具体的には...今は未定です。トレイル0競技合宿なども考えています。

トレイル0 エリートを目指す方がいらっしゃいましたら、声をかけてください。ぜひ一緒にやっていきましょう!(y-n@yan.ne.jpです)

応援ありがとうございました

この原稿はクラブカップ直後に執筆しています。クラブカップの前日世界選手権報告会、そしてクラブカップの会場では思ったよりずっと多くの人々(何十名)が「おめでとう!」と言ってくれました。現地スウェーデンに応援に来てくれて、競技後に「おめでとう!」と言ってくれた方も大勢いました。サポートしてくれたオフィシャルの方々もいました。

今回の世界選手権を通じてトレイル0のことを知っていただき、興味を持って眺めていただいただけでも本当にありがたいことです。今後のトレイル0活動の支援になります。改めてどうもありがとうございました。今後がんばっていきましょう!!

(山口尚宏)